
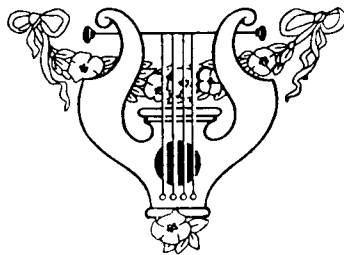




鎌倉交響楽団

# 第36回定期演奏会

 神奈川芸術祭交響楽フェスティバル参加  
かまくら文化祭参加



'80 10月26日(日) 2:00p.m.

鎌倉市中央公民館



# 鎌倉交響楽団第36回定期演奏会

〔後援〕 鎌倉市教育委員会、鎌倉音楽クラブ、文化協会

---

## 曲 目

---

指揮 古谷 誠一

1. 歌劇「運命の力」序曲                      ヴェルディ

2. ピアノ協奏曲第1番 ホ短調op.11        ショパン

独奏 大坪 由子

---

## ◆ 休 憩 ◆

---

指揮 前田幸市郎

3. 交響曲第4番 ホ短調op.98                ブラームス



### ▲鎌響、横須賀市湘南鷹取団地夏祭に出演▲

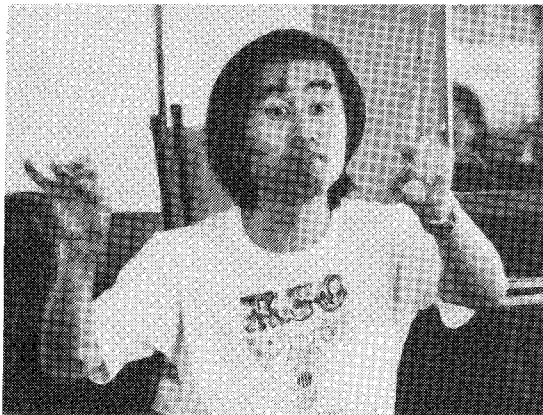
「3度目のアンコール曲“軽騎兵序曲”で演奏会は終わった。……『仕事だけが生活じゃない』という気迫のこもった演奏が、夏の夜、一種のカルチャーショックとなって郊外の団地を駆け抜けた」(’80.8.7付朝日新聞)



前田幸市郎先生のつくり出す音楽は、あたたかい。鎌響創立以来の常任指揮者をつとめる。鎌響の歴史と今日の姿は、先生の御指導の賜物といえる。

「最近の鎌響は？」と尋ねると開口一番「上昇気運だね」とかえてきた。「でも…」とやさしい表情をくずさず、コワイ一言。「みなさん、もう少し音程をしっかりと。アンサンブルとしての音程を、ね。」とにかく「お互いの音をよく聴き合うこと」が課題。

定演前の合宿の時のこと。深夜、遠路はるばる到着された先生、ちょうど宴会に出くわされ、団員のかくし芸に陽気に笑っておられた。



「もっとピアノシモ！」「こっちを見て！見て！」練習場は熱気でムンムン。すっかりおなじみになった古谷誠一先生、柔和な顔立ちとはうってかわって音楽には厳しい。そのきめ細やかな指導は、鎌響を大いに盛りたててくれている。アンサンブルの原点は「棒をよく見ること。他のパートが何をやっているかを知ることにある」という。あくなき探究心と情熱のあふれんばかりの人だ。

秋山和慶、小沢征爾各氏に師事。作曲にも熱を入れている。とにかく古谷さんの日常はねてもさめても音楽一色だそうだ。「女性観は？」と尋ねたら、「イヤー……」と言って照れた。

ショパンのコンチェルトを弾く大坪由子さん。この曲は、昨年、東京シティ・フィルと協演したばかり。今回の演奏では、ショパン音楽の「繊細さ」よりも「力強さ」、「端正な面」よりも「野心的な面」を引き出したいという。「棒弾きにならないように」と付け加える表情は真剣だ。

昨年、家庭の人となった大坪さん、めずらしい経歴のもち主だ。大学では「応用物理学」といういかめしい学問を専攻。学業のかたわら、山岡優子、安川加寿子各氏のもとで着々と腕を磨いてきた。くりっとした眼差しにまだ少女らしさが残る。読書と散歩が趣味という物静かな人柄。



私塾の良さを温存した少人数制・各教室・多彩な内容の展開

## KS 鎌倉ゼミナール

- 本校 島森ビル 3 F ☎0467-23-2137
- 和田塚校 江ノ電和田塚駅前 ☎0467-25-2319
- 逗子校 逗子駅前文章堂ビル4F ☎0468-72-1237
- 幼児教室(2才~3才児) カトレヤビル4F

## 《 曲目解説 》

### ヴェルディ 《『運命の力』序曲》

イタリア最大のオペラ作曲家、ジュゼッペ・ヴェルディは、まだベートーヴェンが生きていた1813年に生まれ、20世紀最初の年、1901年に死にました。オペラ『運命の力』は、1861年、ヴェルディ48歳の年に、ペテルブルグ（現レニングラード）のロシア帝室劇場の依頼で作曲された作品です。

原作は、スペインのリヴァス侯ドン・アンヘル・デ・サーヴェドラの5幕ものの戯曲です。オペラの粗筋を御紹介しましょう。

スペインの名門カラトラヴァ侯爵の娘レオノーラは、異人種の血の混るドン・アルヴァーロと恋仲ですが、家柄を誇る父は娘の結婚を許しません。ついに2人が駆落ちをしようとしているところを父に見つかり、アルヴァーロは過って侯爵に致命傷を負わせてしまいます。

2人は散り散りに逃げのびますが、侯爵の嫡子ドン・カルロは、父の敵を討つべく2人を追跡しついにアルヴァーロをさがし出して決闘を挑み逆に倒されます。しかしその場に姿を見せたレオノーラを、ドン・カルロは最後の力をふりしぼって殺してしまうのです。

序曲は、こうした悲愴なオペラの中のいろいろな曲を用いて巧みに構成されています。曲は運命の力を暗示する金管のホ音の強烈な響きで始まります。続いて弦が奏でる不安な旋律は、不幸な運命におびえるレオノーラの主題でしょうか。劇中でも度々使われますが、これが序曲の中の第1主題。再びホ音が力強く響いて、曲はアンダンティーノとなり、木管に表情豊かな旋律があらわれます。次にヴァイオリンが、ヴィオラの刻みにのって歌う悲しくも美しい旋律（第2主題）は、第2幕のレオノーラのアリアからとられています。曲は、冒頭に弦の奏でた不安気な第1主題を中心に

発展し、劇的にもり上がって終わります。

### ショパン 《ピアノ協奏曲第1番ホ短調》

フレデリック・ショパンは、1810年にポーランドに生まれていますから、ヴェルディと同世代と言ってよいでしょう。彼は20歳の時、祖国を永遠に去り、その後の生涯のほとんどをフランスで過しました。こうした運命から、ショパンにとってポーランドは、決して現実に足を踏みこむことにはない郷愁の祖国となります。

ショパンは、2曲のピアノ協奏曲を書いています。この1番が1830年(20歳)の作、2番が1829年(19歳)の作で、1番の方が後から出来たのです。自信のある1番の方を先に出版したというわけですね。この2曲の協奏曲を書いた頃、彼はコンスタンチアという3ヵ月だけ年下の音楽院の同窓生に恋をしていました。「もしかすると、ぼくには不幸なことかもしれないが、ぼくは理想の女性を発見したのだ。ぼくは魂全体でそれをあがめている。こここのところ6ヵ月というもの、ぼくは毎晩夢に見ているのだが、まだ言葉はかけていないのだ」（プーニケル『ショパン』白水社）これは彼の手紙の一節ですが、いかにも若い青春の息吹が伝わってくるではありませんか。

この作品は、ポーランドを去ることを決意していたショパンの「告別演奏会」で初演されました。この演奏会では、コンスタンチアも共演してロッシニの歌曲を歌ったということです。

さてショパンがウィーンに着いて1週間後の11月29日、ポーランドで大規模な反乱が起ります。当時のポーランドは、ロシアの支配下にあったのです。つい最近も、けたはずれなストライキで世界の耳目を集めたこの国は、ショパンの時代からすでに苦難の歴史を歩んでいたのです。

**第1楽章** 最初の長い弦楽分奏の中に2つの主題が示された後、ピアノが第1主題を装い新たに歌います。第2主題も、装飾がたくさんついてあらわれます。ピアノが旋律を受けもち、ハ長調で



珈琲・洋菓子

**I77**

小町通り (22) 2689  
(22) 8963

31-1960

あなたの音楽の要求をプロの店

**ミュージックショップ Y**

が解決します。

レコード・楽器・楽譜・オーディオ  
のご相談は

“音楽の出前持ち”

**ミュージックショップ Y**

TEL.31-1960 鎌倉市七里ガ浜東4-14-1

◆レコードと

ミュージックテープの

専門店◆



GAKUSEI-DO

合資会社 **楽聖堂**

レコード部 鎌倉銀座通 ☎0467(25)2270

テレビ部 鎌倉銀座通 ☎0467(22)3281

" (23)3124

始まる展開部を経て、再現部では、オーケストラが第1主題の第1節を、ピアノが第2節を演奏します。第2主題をピアノが演奏し、オーケストラが最後を華やかにしめくります。

**第2楽章** 「ぼくの新しい協奏曲のアダージョ（実際はラルゲット）は、強がりを示さない。とてもロマンティックで、静かで、メランコリックだ。それは、幾千のかわいらしい思い出をよびおこす場所への心おきない回顧の印象だ。美しい春の季節に月光のなかで見る夢だ」（ヴォイツェコフスキーへのショパンの手紙から）

**第3楽章** オーケストラの力強い序奏に始まり、ピアノが軽快に歌い出します。この楽章は、19世紀の社交界で愛好されたポーランド民族舞踊、クラコヴィアクの一種ともいわれます。

さて、交響曲第4番は、1884年ブラームス51歳の年に書き始められ、翌年完成しました。第1番にかけられた20年の歳月を考えると、ほとぼしるような速筆ですね。曲はブラームス独特の深い憂愁の念に満ちています。ホ短調という調性は、ブラームス以前にはきわめて珍しいのですが、バロック時代の理論家マテゾンがこの調性に与えた「考え込み、沈思し、悄然とし、悲しんでいるが、なお慰めを望んでいる」という性格は、この曲の場合見事に当たっているというといつてよいでしょう。

**第1楽章** 哀愁をおびた簡素な第1主題で始まります。第2主題第1句は、全く新しいリズムで木管にあらわれ、ついでチェロとホルンがのびやかに第2句を歌います。展開部、再現部を経て、結尾は第1主題を扱いながら力を増していき、その頂点でこの楽章をしめくります。

**第2楽章** ホルンと木管のフリギア旋法（中世の教会施法の一つ）による序奏に始まります。これに基づく第1主題がクラリネットとヴァイオリンにあらわれ展開されたあとに、チェロが美しい第2主題を歌います。

**第3楽章** 強烈な第1主題で始まり、それがクライマックスに達した後に、ヴァイオリンが第2主題をのびのびと歌います。

**第4楽章** この楽章は、バッサカリアの形をとっています。バッサカリアは、短い主題を主として低音部で何回もくり返し、その各反復の上に変奏を築いていくという形式で、バッハやヘンデルの時代に頂点に達しましたが、その後次第に用いられなくなってきていました。ここでブラームスが、この形式を用いたのは、第2楽章のフリギア旋法とともに彼の先祖帰り指向を示すものでしょう。

冒頭管楽器が、力強く音階風の8小節の主題を提示します。この主題が、様々に31回も変奏されるのです。最初の8小節の主題は、バッハのカンタータ第150番《主よ、われ汝を望む》の主題に靈感を受けたものと言われています。

### ブラームス 《交響曲第4番ホ短調》

ヨハネス・ブラームス（1833—97）の時代、ドイツ、オーストリアの音楽は、二つの傾向に大きく分裂していました。一方は、ベルリオーズから糸を引いた、リスト、ワーグナーを中心とする「新ドイツ楽派」で、もう一方は、メンデルスゾーン、シューマンの流れをくむブラームスを中心とする一派です。ブラームスは、リスト、ワーグナーの色彩的、標題乐的、心理的な和音の追求がもたらした古典派以来のソナタ形式の崩壊の危機に際し、もう一度音楽に古典的な形式感をとりもどそうとしたのです。しかもその形の中にロマン的な感情をもちこもうとした苦渋の中にブラームスの偉大さと退屈があります。

こうした、両派の対立は、ブラームスから、ハンス・フォン・ビューロー、若き日のR.シュトラウス、プフィッツナー、ワーグナーからはヴォルフ、ブルックナー、マーラー、後期のR.シュトラウスへと尾を引き、指揮者のカール・ベームなどは、若い頃にこうした対立を実際に経験してきているのです。ブラームスは、ついこの間の人なのですね。

通勤・通学服もおしゃれ着も  
すべて1日でOK!!

特急仕上でしたら2時間で…

ファッション・クリーニング



スピードクイーン

逗子店 0468(71)3293 鎌倉由比ヶ浜店 0467(22)1501  
逗子駅前店 0468(73)8114 茅ヶ崎十間坂店 0467(85)7310  
鎌倉大町店 0467(25)3722 茅ヶ崎共恵店 0467(85)9209

## 鎌響ファンの声

## 「席にある者」

鎌倉市七里ヶ浜在住 石橋義史

＜暑秋＞などという言葉を見かけた9月のある日、かねて通知を受けていた大学時代の同窓会に出席した。どういう経緯でそうなったのか、7年ごとに開かれるこの飲み会も、卒業以来3回目で、中年男や女たちは、こもごも、かつての都の西北での＜青さ＞を垣間見させながら、酔いのなか、複雑な時間にひたって深更に及んだことだった。

閑話休題――。

その日、定刻2時間ほどまえに、会場のある高田馬場へ着いた。数軒、古本屋をのぞいてから、「モンシェリ」「らんぶる」「琥珀」「あらえびす」といった喫茶店をハシゴした。昭和20年代の末から30年代の半ばにかけて、あるときは同人雑誌仲間と生煮えの議論を交わすため、あるときは己れを使嘆(しそう)する内なる修羅(しゅら)をひとりなだめるため、またあるときはガラスの破片で脳漿(のうしょう)をかきまわされるようなバクダン(焼酎)の強烈な跳梁(ちょうりょう)をまぶすために立ち寄った店々である。懐かしかった。あのころ、モオツァルトばかりを所望していたのはなぜだったのか。K.421のカルテット、クラリネット協奏曲、そして、そうだ、レコーディングされたばかりのバガニーニのヴァイオリン協奏曲第二番。――ラーメンが30円、タクシー(ルノー)が60円、学帽が質草になりえた時代であった。

――鎌響の定期演奏会には、都合のつくかぎり出かけていく。団員のなかには、S君の懸命な姿があるし、ひよんなきっかけで知りあった慶応ボーイのTさんの、髪をかきあげるデリケートな人差し指があるし、＜長兵衛＞で時折りお会いするJ氏の軽やかな運弓もある。

むろん、出来のいい演奏がある。が、耳に障る

局面もないではない。それでいいとは思わない。単なるディレクタントの集団が鎌響であるわけはなからうし、アマチュアという名にかくれての弥縫(びほう)が許されようはずはないからだ。月並みながら、鎌倉市民が暖かい目で、あるいは耳で、鎌響の更なる収斂(しゅうれん)を見まもっていくことが必要なのだろう。

ニュージーランド帰りの知友が＜家々の物干しには大小とりどりのラグビージャージが吊るされていて壮観だった＞と話してくれたことがある。稚いころから、あの楕円のボールに親しんでいるお国柄をうかがわせるエピソードだが、同時にこれは鎌響の演奏を聴く者たちに、なにがなし、反省を強いるそれでもあるだろう。

つまりこうだ。例えば＜魔笛＞という複雑にして単純な歌劇は、要するにタミーノとパミーナが、つまり男と女が、＜愛＞によって結ばれる話だといえるだろう。ヨーロッパの子供たちは、この＜愛＞の物語に幼少のころから親しんでおり、あるいは親しむ機会を与えられており、したがって充分楽しむことのできる能力を培われ体現してもいるという。ひるがえって、わが鎌倉市中央公民館においてはどうか。いまにも、どこからか、＜ええ、オセンにキャラメル＞といった声が聞こえてでもきそうな休憩時間、子供たちは場内を駆けまわり、オセンベの袋をかきごそさせ、演奏中にも親もシーツと子に耳うちし……。ことは＜文化＞の問題なのだ。

ベートーヴェンのピアノ協奏曲を聴いたときだから、第33回定期演奏会の折りだったか。斜めまえにすわっていた市内に在住の高名な音楽評論家N氏は、演奏半ばにして席を立った。所用のせい、センベイのせい。

文化都市鎌倉は、そこに＜在る＞ものではあるまい。わが鎌響も、聴衆の、言葉の高い意味での参画によって、初めてその清澄な響きを響かせてくれるはずだ。鎌響ファンに課せられた責任の重大さを思わずにはいられない。

# 横須賀線沿線唯一の……

## フラワーデザイン材料

美しい花に調和をもたらす花材の総合商社

全国花材流通協会会員・JFTD賛助会員・NFD賛助会員

# サン産業株式会社

〒150 東京都渋谷区恵比寿南2-4-4

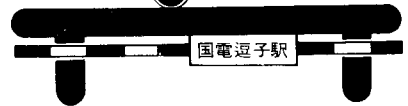
〒249 神奈川県逗子市山の根1-3-6

TEL (0468) 71-2025

逗子駅  
下車  
!!

駅裏口通り

国電逗子駅



## 「吾輩は猫である」鎌響編

作＝高橋正彦・弘子

吾輩の新しい保護者がここに引越してきたのは、そう3、4ヶ月前、ちょうど吾輩が迷子になって途方にくれている時でした。近所のオバサン連中が「新婚サンらしいわヨ」とか言っていたのでよく覚えているのです。引越も一段落、しばらくするとキーキーとかカゴワゴワとか、ケツタイな音が聴こえてきました。(後でわかったことですが、あれは“調弦”というものだそうです。)

音楽らしきものが始まりました。コッカ、コッカ、コカッサ……とスティックがリズムを刻んでいます。楽しい音楽なので、とても愉快的気分になりました。でも、せっかくの音楽がダミ声でしょっちゅう中断するのです。「オイ！もっとヴィブラートかけてきれいな音を出せや！」「何言ってるんだい、そっちこそちゃんと調弦したのかい？」っていう調子なのです。あげくのはては、「まさしく、幅広い音程、多彩なリズム、ソリストぞろいの…」などと言っては笑いこける始末。大の男が子供のケンカみたいにやり合ったりするので思わずふき出してしまいました。どうやら“音楽”ってというのは、“人間”を童心にかえらせるものなんだなと感心した次第。「じゃ、明日、いよいよだネ、花ムコサン、花ヨメサン」「どうもありがとサン。よろしくネ」これで合点がいきました。あれは吾輩の保護者パパサンとママサンの結婚式のための練習だったわけです。

パパサンとママサンが旅行から帰ってきてすぐ、吾輩は“ニャーニャ”という気のきかない名前前で呼ばれ、この家で一日二食にありつけることになりました。最初のうちは、家の中に入れてもらえなかったのが、吾輩、強引に家族の一員になって

やれと努力しました。そのかいあってか、このごろは、パパサンと一緒にテレビを見たり、ステレオを聴いたりしています。ママサンは、といえば、ネコは苦手とかで、あまりベタベタするとおこられます。でも、やっと吾輩専用の座布団も作ってくれたので少しは感謝しています。

ところで、吾輩のパパサンとママサン、土日になるといそいそとでかけてしまいます。休日のたびにどこへ行くのでしょうか、好奇心旺盛な吾輩、ある日こっそりついていくことにしました。そうしたら、何とパパサンが、一生懸命、ナベのお化けみたいのをかついだりしているではありませんか。全く、たまの休みだということにご苦労なことです。それにしても、本物の“ティンパニ”をみたのは始めてです。何か動物の皮が張ってあるみたい、まさかネコのではあるまいかと一抹の恐怖にかられ、生つばをゴクリ。案の上、吾輩のパパサン、ママサン、吾輩を横目でにらんで、「「ニャーニャ」のは、あまりいい音が出そうもないナ」「アラ、そんなことないわヨ」と言っているようにみえたのでゾォーとしてしまいました。

吾輩のパパサンとママサンは、“鎌響”で活躍しています。そもそものなれそめも、ここだったらしいのです。“鎌響”や音楽のことが毎日の会話に出てくるくらいですから、よっぽど好きなんです。よく指揮者や他の団員の物真似などをしたりしてはゲラゲラやっています。パパサンは打楽器。「ショパンのコンチェルトは、百小節以上の休みがあるから、眠くなっちゃうヨ」本当に居眠りする時があるようです。ママサンはフルート。「ここんところが難しいのよネー」と毎晩、パパサンの帰りを待ちながら練習に励んでいます。二人は、いつか弦楽器もできるように言っていますけれど、正直なところあまり歓迎できません。近所迷惑もさることながら、いつか生まれてくる赤ちゃんのためを思えばなおさらです。でも、まあ気長に見守ることにします。パパサン、ママサン、しっかり。演奏会もまじかにせまっていますヨ。

銭洗弁財天境内・数寄屋造りの店

## こくに茶屋

## ■甘味・喫茶

源平豆腐・源氏豆腐・山菜そば  
わらび餅・くずきり

## ■お土産

弁財天ゆかりの商品  
地方民芸玩具等

## ※営業時間

午前9時～午後5時(年中無休)

☎0467(22)3452

鎌倉の雰囲気

おいしいコーヒーと  
ケーキを

珈琲と洋菓子

門

珈琲

小町店 23-0503

北鎌倉店 23-1660

冬物大量入荷!!

紳士服の御仕立は

鎌倉テラー

由比ヶ浜中央商店街

TEL 22-2408

# 団員名簿

理事長 伊 沢 龍 作      常任指揮者 前 田 幸市郎      運営委員長 山 本 賢 二  
 コンサート・マスター 畠 中 正 志      トレーナー 藤 原 義 章      古 谷 誠 一  
 技術顧問 吉 水 洋      マネージャー 多 田 宏

Violine 石 井 詠 子  
 井 上 康 男  
 上 野 千代子  
 宇 多 綾 子  
 沖 野 美 保  
 小 栗 美 木 子  
 小 原 治 子  
 川 口 直 子  
 喜 多 埜 昇 次 子  
 橘 田 武 子  
 桐 本 圭 三 子  
 桐 本 慶 紘 子  
 下 田 絃 子  
 真 貝 洋 子  
 新 谷 孝 仁  
 鈴 木 義 明  
 高 梨 公 明  
 多 田 薫 子  
 中 川 紀 子  
 中 崎 久 美 子  
 中 村 順 子  
 永 井 八 郎  
 西 村 靖 之 助  
 畠 中 正 志  
 蜂 谷 光 代 子  
 堀 口 明 子  
 牧 野 英 理 子  
 増 田 秀 人  
 松 野 美 智 子  
 丸 山 寿 一  
 八 城 仁 恵 子  
 山 下 瑤 子

Viola 荒 井 国 夫  
 内 海 俊 郎  
 小 原 克 馬  
 笠 井 晶 二  
 後 藤 泰 久  
 高 橋 知 子  
 田 口 重 雄  
 辻 本 博 司  
 中 沢 良 寿  
 羽 藤 秀 雄  
 水 上 龍 清  
 伊 沢 龍 作  
 飯 田 達 男  
 齊 藤 安 芸  
 上 田 和 男  
 加 藤 律 美  
 佐 藤 元 一  
 浄 法 寺 章  
 菅 原 甚 潤  
 服 部 甚 蔵  
 藤 村 靖 之  
 松 野 義 明  
 文 珠 川 健  
 C.Bass 大 内 達 郎  
 北 川 洋 行  
 真 貝 雅 人  
 菅 原 正 人  
 畠 山 鉄 太 郎  
 矢 野 健 稔  
 山 本 正 剛  
 山 本 賢 二

Flute 高 橋 弘 子  
 菊 竹 秀 人  
 岸 朋 子  
 沢 田 五 十 二  
 間 瀬 亮 三  
 Clarinet 伊 沢 力  
 金 子 光 延  
 笠 井 恵 津 子  
 矢 作 乾  
 Bassoon 入 江 正 道  
 関 根 章 佑 子  
 松 木 直 樹  
 坂 本 本 直 敦  
 沢 藤 尾 正 明  
 山 田 尚 慶  
 Trumpet 津 金 勝 枝  
 枋 窪 文 雄  
 中 島 誠  
 Trombone 原 山 壯 一 郎  
 座 田 雄 司  
 川 端 則 和  
 北 村 利 郎  
 藤 本 永 功  
 松 小 島 基 勉  
 小 藤 井 理 央  
 Percussion 阿 部 友 行  
 上 原 誠 彦  
 高 橋 正 子  
 根 岸 礼 子  
 Piano 間 瀬 賢 二

**弦楽器奏者募集中!**

【ファゴット  
 オーボエ  
 ホルン】

※連絡場所  
 宇多宅 ☎0467-22-2242

---

**第37回定期演奏会**  
 ドヴォルザーク  
 交響曲第9番「新世界より」ほか  
 来春 5月16日  
 中央公民館



●ニコンウルトラビュー  
(遠近両用レンズ)  
**好評発売中!**

●コンタクト用  
(ソフト・ハードケース) **取扱**  
(クリナー・保存液)

optical・shop  
 KAMAKURA  
**森川眼鏡店**  
 ☎(22)2964

ニユーオーケストラ

●と き 昭和56年1月24日(土)

●と ころ 中央公民館

- 家族で楽しめる歌とオーケストラのタベ!
- クラシックからポピュラー、日本の歌に至るまで盛りだくさんのプログラム!
- 聴衆参加の愉快的な企画を用意!



伝統を生かした最高の味

千羽鶴サブレー  
フランス風ビスケット



**風月堂**  
ほんそれいゆ

由比が浜店 TEL.(22)0963代  
鎌倉表駅前店 TEL.(22)2538  
逗子店 TEL.(71)4730  
江の電鎌倉駅名店街  
TEL.(23)0928

フランス料理



**小町園**

横須賀線下馬ゲート脇  
TEL.(22)2370

**JURI et MODE**

鎌倉市御成町5-31  
(泉ビル2F)  
TEL.(0467)22-4105  
茅ヶ崎市中海岸1-1-58  
(太陽ビル1F)  
TEL.(0467)87-1145



KAMAKURA  
**花邑**  
HANAMURA

特選洋品雑貨  
鎌倉八幡通り ☎0467(25)3310

**熱い  
予約席。**

パーティー・誕生日・行楽のおともに、サンドイッチ  
デリカデッセン・ペストリーをご利用下さい  
ご予約はお早目に……

青山アンデルセンの店  
**リトルマーメイド**  
鎌倉市役所前(TEL25-5025)

カフェテラス

**ラパン**

特選料理

ビーフシチュー  
ホタテプロバンス風  
仔牛シャンピーソース  
仔牛ミラネーズ  
仔牛ハンガリー

鎌倉市御成町14-1 御成ビル1F  
TEL.24-1146

美しく健康にやせる法

ミラクルコーケン・肥満  
神経痛・リュウマチ・シミ  
自律神経・婦人病・成人病  
失調症

〈オリーブ自然美容法〉

**生和薬局**

● 鎌倉駅西口銀座通り ●

御相談・予約電話 (0467) 22-2535

わたくしたちは  
皆さまに喜ばれる良い印刷物を  
つくるためにも、音楽は大切な糧  
であると思っています。



**石井印刷株式会社**  
☎ (22) 3282 (代)

**芋川耳鼻科クリニック**  
咽喉

鎌倉・小町壺番館ビル3階  
電話 (24) 7273

YAMAHA

NEW C-90



いつも、心に駆け足するくらいのリズムを持ちましょう。

心に弾むリズムをもっていると、あしたがもっと  
明るくかがやいてきます。楽しいリズムをエレ  
クトーンでみつけてみませんか。PASSystem  
の流れをくんだクリアーな音質、多彩な表現機  
能が魅力のNEW C シリーズにC 80、C 90が  
加わり、シリーズが充実。いちだんとお求め  
やすくなりました。

●C-80 ¥195,000(イス付) ●C-90 ¥240,000(イス付)

●C-100 ¥300,000(イス付) ●C-200 ¥370,000(イス付)

●C-300 ¥450,000(イス付) ●C-400 ¥550,000(イス付)

## YAMAHA ELECTONE New C-series

あしたのリズム。

# YAMAHA

# ヤマハ音楽センター

幼児科・児童科・エレクトーン科・ピアノ科・ジャズポピュラーピアノ科・フルート科  
ドラム科・サクソ科・フォークギター科 〈村田ビル3F ☎0467(23)0185〉

由比ヶ浜六地藏

**小林楽器**

**鎌倉ショップ**

ショップ(22)3165

センター(23)0185